

支部便り

軽金属学会関東支部2019年度（第5回）若手研究者講演発表会

A report on the fifth workshop for young researchers, FY2019, by Kanto branch, Japan Institute of Light Metals

渡邊 満洋

Mitsuhiro WATANABE

令和元年8月18日(日)～19日(月)に日本軽金属株式会社蒲原製造所にて開催した、軽金属学会関東支部2019年度（第5回）若手研究者講演発表会について報告する。

本講演発表会は、2011年度から関東支部が隔年で実施している若手研究者育成行事の一つであり、これからの軽金属学会を担う若手研究者の育成ならびに交流を目的に、軽金属に関する研究に携わる35歳未満の若手研究者を参加資格として募集している。本年度の講演申込みは、2名の企業研究者（株式会社神戸製鋼所1名、日本軽金属株式会社1名）および20名の大学院生（茨城大学5名、宇都宮大学2名、群馬大学3名、工学院大学1名、千葉工業大学2名、東京工業大学2名、日本大学4名、横浜国立大学1名）の22名であり、これに9名の関東支部運営委員会委員を加えた合計31名で講演発表会を開催した（図1）。

これまで本行事は、株式会社神戸製鋼所鬼怒川保養所や日光総合会館で開催されてきたが、今回は日本軽金属株式会社蒲原製造所にお世話になることになった。また、今回は現地集合とし、講演者が開始時間に到着しない等の問題があったことを教訓にし、今回は8時30分に東京駅に集合し、大型バスで会場に向かった。初日はお盆休み最終日ということもあり、道路渋滞による講演予定時刻変更も懸念されていたが、蓋を開けてみたら特にトラブルもなく、計画していたスケジュール時刻よりも1時間程早く会場に到着した。バス内で取る予定であった昼食の弁当を会場にて済ませ、講演発表会を開始した。

講演発表会は2つの会場にわかれ、1会場につき11件の講演発表を行った（図2）。講演時間は15分の発表時間と5分の質疑応答時間の合計20分であり軽金属学会の春秋講演大会と同様であるが、このようなワークショップは講演内容を踏まえたセッション作りをしていないため、講演内容を聴講者に理解してもらうためには背景やモチベーション等を簡潔かつ明瞭に述べる必要がある。そのため、聴講者に理解を促すために工夫を凝らした発表スライドが多かったように感じた。また、講演内容に対して深い知識がない聴講者からの純粋な質問（疑問）はこのような発表会だからこそのものであり、講演者にとっても改めて勉強し直しや、説明の方法を考える良い機会になったと思う。講演発表会は滞りなく終了し、宿泊ホテルにて夕食を共にしながら、講演内容や発表方法を話題にして交流を深めた。

2日目は、日本軽金属株式会社の穴見敏也様より、特別講演として「日本のアルミニウム産業の歴史と企業における研究・技術開発から商品への展開」という題目のご講演をいただいた（図3）。穴見様の「アルミニウムのファンになってもらいたい」という熱い想いが詰まったご講演であり、学生は心打たれたに違いない。特別講演ののち、初日の講演発表会の表彰式を行い、日本軽金属株式会社蒲原製造所およびグ



図1 蒲原製造所正門で撮影した集合写真



図2 講演発表会



図3 穴見様による特別講演

ループ技術センターを見学させていただいた。蒲原製造所では、現在は撤退したアルミニウム精錬の装置モニュメント、鋳造工程、押出工程、大型発電設備を、グループ技術センターでは先端分析機器を見学させていただき、ダイナミックながら緻密な制御がなされていることに感銘を受けた。

最後に、本講演発表会ならびに工場見学では、日本軽金属株式会社の皆様が大変お世話になった。また、参加いただいた若手研究者の皆様ならびに関東支部運営委員会委員の皆様にご協力いただき、本講演発表会は盛会となった。この場を借りて厚く御礼申し上げます。